

(3) ササ調査プロットの追加

今後の保全管理のため、ササの拡大とカタクリの関係を調べる必要があります。これまで8カ所の植生プロットを設定していますが、突哨山と身近な自然を考える会ササグループの調査データを活かすため、過去の記録を調べ、追加設定するプロットを考えました。

■現在の植生プロット

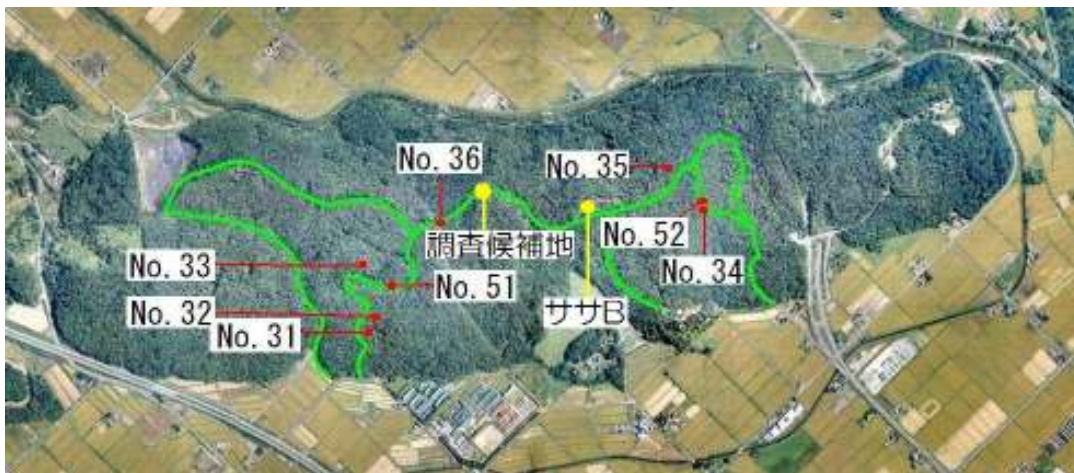
2009年に設定したプロットは8カ所あります。(下図参照)

「No.31～36」は林床植生、「No.51、52」は踏みつけの影響、

「No.11～15」は樹木の生育を調査目的としています。

春植物調査は毎年、その他の林床植生は3年ごと、樹木調査は5年ごとに行います。調査では、種名、被度、群度などを記録しています。

今後のササの管理の方針を決めるにあたり、ササとカタクリの勢力の推移を観察するためのプロットを追加設置することを提案します。下図の中で、新設が「調査候補地」、過去のプロット引き継ぎが「ササB」です。



■新たな調査候補地

5月の現地調査で、「ササとカタクリの関係」を見るためのプロットを仮に設定してみました。カタクリ広場口から1.2kmほど歩いた稜線上で、高層木がなく、ササ群落の前線とカタクリ群落がぶつかっているところです。遊歩道からすぐ見ることができるので、利用者にもわかるように展示します。ここで、固定プロットを設置し、被度、群度の調査や、スケッチ、写真撮影などを行い、推移の様子を目で見てわかるように記録していきたいと考えています。

■旧プロットの引継ぎ

5月の踏査で、2001年にササグループが設定したA、B、Cプロットのうち、稜線上のBを確認しました。確認には当時の調査メンバーも参加してくださいました。このデータを活かすため、記録方法を一部簡略化した上でササの勢力拡大とカタクリ群落の変化を長期観察する調査プロットにしようと考えています。



9年前の調査プロットを探す。当時の杭やテープが見つかった



2002年報告では、ササの勢力拡大は年間1mとある。現在も最大でそれに近い拡大と考えられる

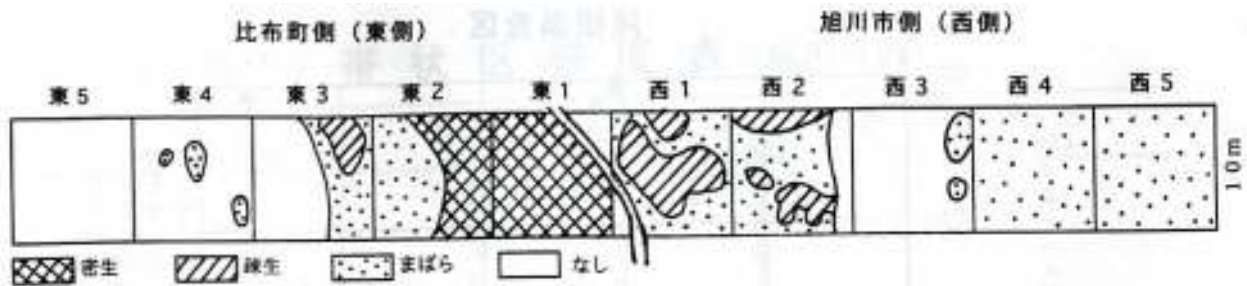
(参考資料) 2002年のササ調査グループ中間報告

★考える会ササ調査グループの中間報告から。文中の「調査地点B」が今回の追加プロット予定地です。

2001年5月20日にほぼ全域を歩き、遊歩道沿いのササの分布を密生地、疎生地に分けて地図を作成しました。

比布側と東鷹栖側に10m×50mの帯状区を設置し林床植物と被度を調査しました(A地点)。

また6月にB(尾根)、C(林内)調査をしました。



【調査結果】

尾根(A、B)では、1年で約1mほどの拡大、林内(C)では、それほど拡大していない。

【今後の調査課題】

- ・尾根と林内ではササの拡大パターンが違うので、シュートのマッピング調査を数年続けることで、違いがはっきりみえてくる。
- ・新しいシュートが現れた年を記録する。
- ・ササが拡大していく要因の光と水の内、どちらが強く影響しているか、その為の調査方法の検討。
- ・帯状区を伸ばし、ふもとの林縁部まで記録したい。

【ササ調査グループメンバー】秋山永、石川悦子、岡本賢二、鎌田巖、鎌田融鉄、塩田惇、津川怜子、出羽寛、寺島一男、奈良伊世、則元晃、舟橋健